

春の尾瀬—至仏山ムジナ沢—

2010年4月10,11日
山本実 (L、記)、釣秀平

4月10日(土) 晴

戸倉のゲート前に駐車して、山スキー道具全て担いで林道を歩きだす。重い。鳩待峠までどのくらいかかるやら、、、。傍らをマウンテンバイクで追い抜かれる。彼らは日帰りのザックで身軽なのがうらやましい。歩き始めて30分くらいで、後ろから「乗ってくかい」と車に声をかけられる。尾瀬ロッジの管理人さんで鳩待峠まで行くとのこと、なんとラッキー！思わぬ僥倖に早速お世話になる。除雪された林道を30分ほどで、峠に着いた。お礼にと寸志を差し出したが決して受けとらない。(今度機会があったら尾瀬ロッジに泊まることにしよう)

荷物を峠にデポして、お陰さまで9時半には登り始める。春の日差しが心地よくのんびりとスキーを前に出していく。前には至仏山の優美な姿、右には尾瀬ヶ原が広がり、奥に燧岳がどっしりと構えている。今日は風も弱く穏やかな日和だ。長めの休憩をとりながらゆっくりと小至仏のトラバースに入る。3時間ほどで至仏の頂上着。北側は見渡す限り真っ白な越後の山々。しばし見とれる。



長い休憩をとってムジナ沢へ、800mの大バーンが待っている。最初は北東へ小さな尾根状を100mほど下り、ヤブが出てきたところで左にムジナ沢の大斜面に滑りこむ。広々とした斜面でどこでも滑っていきける。傾斜もちょうど良い加減で雪質もよい。山の鼻まで一枚バーンで続き、気分は最高だ。一気に滑るのがもったいなくて、釣さんと写真や動画やらを撮りあいながら降りてゆ



く。こういう時があるから下手でもスキーは止められない。まさに山スキーの醍醐味だ。下に行くに従って雪も柔らかくなって腿もつらくなってくる。そのうち斜度もゆるやかになり、尾瀬ヶ原に出た。

山の鼻でシールを付けて鳩待峠まで登り返す。途中左に巻きながら4時ごろ峠に着く。最後の登りはきつかった。テントを張ろうとすると釣さんのザックに穴があいていて食料袋が食い破られている。カラスの仕業だ。皆さんご注意を。

4月11日(日) 小雨

朝方、外を見ると小雨がぱらついている。予報では午前中は持ちそうだったのでもう一本ワル沢へと考えていたのだが、朝飯を食べている間にも雨足は弱くならない。残念だが昨日のスキーで満足することにして下山。あとはチンタラと戸倉へ下る。途中

釣さんに、穴のあいたザックどうするの？
て聞いたらツギして沢に使いますって言ってました。

4/10 戸倉 7 : 30=鳩待峠 9 : 00-9 : 30~
至仏山 12 : 30-13 : 10~山ノ鼻 14 :
20-14 : 20~鳩待峠 16 : 00

4/11 鳩待峠 8 : 00~戸倉 10 : 40

地図 : 至仏山 (2万5千)

